

令和 8 年度 第 1 回恵庭市社会福祉審議会

高齢者福祉・介護保険専門部会 会議録

1. 開催日時 令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 午後 1 時 3 0 分～午後 2 時 4 0 分

2. 開催場所 恵庭市役所 2 階 入札室

3. 出席者

【出席委員】 亀石委員、伊藤委員、紅葉委員、齊藤委員、木下委員、
本間委員、野口委員（計 7 名）

【欠席委員】 3 名

【傍聴者】 0 名

【報道関係】 0 名

【事務局】 保健福祉部長、保健福祉部次長、介護福祉課長、保健課長、
介護福祉課 高齢者相談・介護認定担当主査、介護保険担当主査、
指導担当主査・スタッフ（2）、保健課主査 （計 1 0 名）

4. 内 容

- （1）開会
- （2）委員・関係職員自己紹介
- （3）部会長挨拶
- （4）保健福祉部長挨拶
- （5）議事

<報告事項>

- 1. 第 9 期恵庭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における
令和 7 年度事業評価について
- 2. 第 1 0 期恵庭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について
- 3. 地域密着型サービス事業者等の新規指定等について
- 4. 指定介護予防支援の一部委託について
- 5. 恵庭市有償サービス「ちょこっとお手伝いサービス なんもだよ」の
料金改定等について

(6) 詳細

<報 告>

1. 第9期恵庭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における令和7年度事業評価について

第9期計画における施策体系別計画の中にある基本目標別に整理している。各目標でピックアップした事業に係る実績及び自己評価を資料にまとめている。

2. 第10期恵庭市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について

第10期計画（令和9年度～11年度）の計画策定の趣旨やスケジュールについての報告を行っている。また、昨年度に実施した各種アンケート調査の分析と考察についての資料も添付している。

3. 地域密着型サービス事業者等の新規指定等について

居宅介護支援、介護予防支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、訪問介護相当サービス、通所介護相当サービス事業所について、同一事業所の廃止と新規指定となっているが、吸収合併による運営法人変更に伴うものである。

小規模多機能型居宅介護事業所は本年1月より休止となっていたが、3月末に廃止となったものである。

4. 指定介護予防支援の一部委託について

地域包括支援センターが主に実施している介護予防支援事業について、一部業務を居宅介護支援事業所へ委託することができる。

現在の委託状況について、資料のとおり報告する。

5. 恵庭市有償サービス「ちょこっとお手伝いサービス なんもだよ」の料金改定等について

本事業における除雪を行った協力者へ支払われる報酬について、恵庭市社会福祉協議会で実施する「高齢者等玄関前除雪サービス事業」における作業員の請負単価に合わせて改定するもの。1回あたり1,600円から、除雪範囲の広さに応じて段階的に金額を設定することに変更とする。

【部会長】 只今、事務局より説明のあった、報告について質問・意見等はあるか。

【委 員】 報告1の2ページの令和8年1月に介護人材採用力向上セミナーの実施とあるが、内容や講師、参加人数などを伺いたい。

【事務局】 内容については、求人広告の出し方、応募が来た際の対応の仕方や採用した場合の職員の定着に関わる職場の雰囲気づくりについての講演をしてもらった。講師については、経済部商工労働課で市内の合同企業説明会等の委託実績がある

事業者講師として依頼をした。当日は50名程度の参加があった。

【委員】報告2の17ページの問5（3）について、地域づくり活動に参加してみたいかという設問で「参加したくない」という回答が一番多いが、地域づくり活動の担い手が少ないのは全国的なものではあるが、市役所だけで対応するのは限界があると思う。社協、地域包括支援センターの方々の知恵も借りながらどうすれば参加したくない人も参加してもらえるようにできるかを計画に反映させることが出来ると良いと思う。

【委員】報告2の19ページの問7（5）で家族や友人以外で何かあったときに相談する相手を聞く設問について、相談相手がいないとの回答が40%を超えているが、この問いかけでは「相談相手が欲しいけれどもいない」あるいは「相談相手はいらない」のかを把握はできないためアプローチが難しい。国が作成した設問ではあると思うが、その点をはっきりできた方が調査の趣旨としては良かったと思う。

【委員】報告2の21ページの問9（2）の認知症に関する相談窓口を知っているかの設問については、62.9%が「いいえ」と答えているが、これは認知症に限定しているため窓口を知らないと答えた可能性もあると思う。ただ、この結果を見ると、周知方法に何らかの工夫をした方が良いのかもしれないと感じた。

【委員】報告2の31ページの問9の介護者に対する勤め先からの支援の設問について、介護休業、介護休暇などを自分の会社で適用されるのを知らない方もいるのかもしれないし、色々な仕組みがあることは市としても周知してきたとは思いますが、市としてできることを考えると、市内の事業者への周知をどのように行うかとして商工会議所の方々を通した周知等に限られると感じた。

【委員】報告2の41ページからの介護人材実態調査について、恵庭市の結果を他の自治体と比べる際には介護労働安定センターが介護人材についての調査を定期的実施しているため、全国の傾向を見るには参考になるとよい。今回の調査だけで事業者向けに人材確保対策を立てるのは難しいと思う。昨年開催されたセミナーの中では職員の定着という話もあったようだが、まずは募集をかけても応募が無いということが問題であり、どのような人材を採用したいのか等の事業所側のニーズを把握して、その採用についての入り口の部分に対して市役所がお手伝いできれば良いのではと思う。

【事務局】事業所側のニーズの把握については、今後事業者向けに人材確保について独自で再度調査で行う予定になっているため、その中で事業所の課題や行政に対して希望する支援を確認したいと考えている。

事業所毎に職員が少なく採用活動ができなかったり、費用的なところで人材

確保の費用を捻出できない、あるいはお金も時間も人もかけても採用できないなど、その規模に応じた対応策を検討すると壮大な問題になってしまうため、今回の計画でどこまで位置付けられるかを今後専門部会の中で改めて相談させてもらいたい。

【委員】地域の活動について、老人クラブではクラブ加入者の活動は把握できるが、未加入者については町内会の方で全部把握することは難しい。加入者には健康づくり等に参加してもらうので、その中で個人の生きがいづくりなどに結びついていけばいいと思っている。老人クラブへの未加入者の掘り起こしは本当に地道な活動でなかなか大きな結果には繋がらないが、年に1人2人の掘り起こしをしながら活動しているところである。

【委員】報告1の1ページの具体的な取組について、介護支援専門員に対する支援と連携の内容を確認したい。

報告2の21ページ問9(2)の認知症に関する相談窓口を知っていますかという設問について具体的に行政として考えている窓口を確認のために聞きたい。

報告2の33ページの問1で、ケアマネジャーの人数は記載されているが、利用している人数を教えてください。

【事務局】介護支援専門員との連携支援に関しては、ケアプラン点検の実施の中で、研修会を実施している。ケアプラン作成にあたって注意すべき事項や、アセスメントについての研修を行った。また、住宅改修等のみでケアプランの作成がない場合に介護支援専門員の方へ補助金の支給を行っている。今後、介護人材の確保定着の部分でも何かできることも検討していきたい。

認知症の相談窓口については、多くの場合は包括になるかと思うが、相談ができる場所のきっかけは包括で、そこから認知症初期集中支援のチームオレンジに繋がったり、病院にも繋がっていくパターンもあると思う。介護福祉課でも相談を受けて専門的なところに繋いでいく。窓口の周知については周知方法を変えることも検討したい。

報告2の22ページに地域包括支援センターについて、市の独自調査で確認している項目があり、活動内容について把握されてる方は比較的多数いるが、

「認知症」と繋がっていない部分もあるかと思うので、地域包括支援センターを周知する中で、認知症になった時の相談も関連して周知できるような仕組みにできればと思う。

33ページのケアマネジャーの利用者については、ケアマネジャー1人につき平均27.8人、1事業所では平均86.24人の利用者数となっている。

【委員】前回のアンケートの時に、高齢者の皆さんが参加したい趣味活動についての設問があったが、今回はスポーツに関する設問のみ掲載されている。前回の結果

を自分たちの事業所でも参考にさせていただいていたので、今回もスポーツに限らない趣味活動について把握できると良かった。

また、介護人材確保についての事業所側の現状として、法人では一生懸命求人を出しているがなかなか厳しく、紹介業者からの紹介の場合は年収の3割ほどを紹介料として業者へ支払っている。しかし紹介業者から紹介されて採用しても3か月程度で辞めてしまうこともある。他に、インターネット上で人材をチョイスできるような仕組みを利用したり、法人自体の支給制度や紹介制度だったり、外国人材にも来てもらったりと色々しているが働こうという人たちが自分からスマホあるいは電話をかけて求職するようなことが少ない感じがしている。ハローワークからの紹介も今はかなり減ってしまった状況なので、仕事を探す方法も変化していると感じている。

(7) 閉会

【部会長】 その他、ご意見・質疑がなければ事務局より連絡事項はあるか。

【事務局】 次回の専門部会は8月頃を予定しているので、若干前後する場合もあるが、時期が近づいたら、また日程等のご案内をしたい。

【部会長】 それでは、以上をもって閉会とする。

※報告2資料「恵庭市高齢者アンケート調査 分析と考察」に係る質問、意見について、同資料に掲載していない設問に対するものもあったため、参考として別紙資料を各委員へ後日提供した。

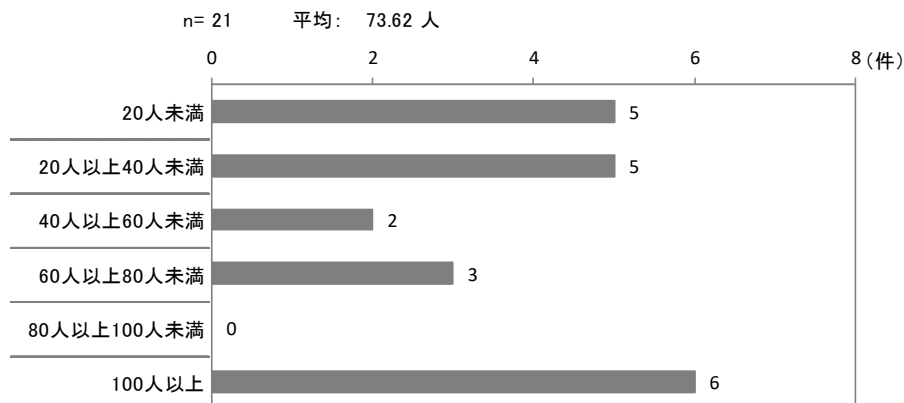
【参考資料】

<在宅生活改善調査>

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数についてご記入ください。

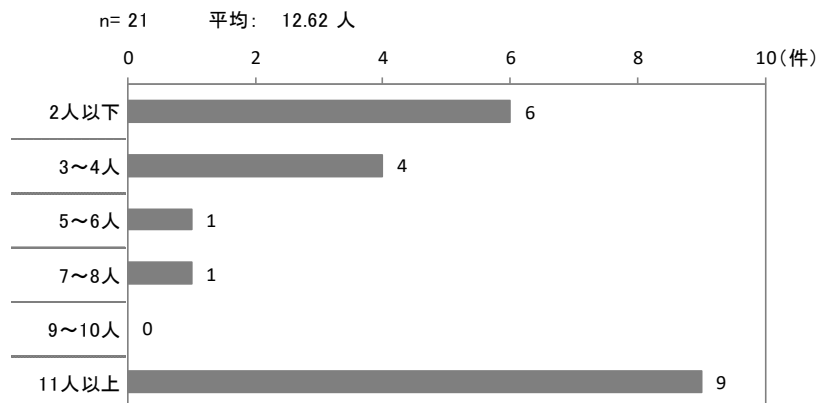
(※ケアマネジャーの人数は専門部会資料の「報告2」の33ページに掲載)

○「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）」にお住まいの利用者数



「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）」にお住まいの利用者数については、21件中、「100人以上」が6件、次いで「20人未満」、「20人以上40人未満」がそれぞれ5件となっており、平均は73.62人となっている。

○「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数



「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数については、21件中、「11人以上」が9件、「2人以下」が6件となっており、平均は12.62人となっている。

◎ケアマネジャーの1事業所あたりの平均が3.10人、1事業所あたりの利用者の平均が86.24人（73.62人+12.62人）となっており、ケアマネジャー1人あたりの平均利用者数は27.8人となっている。

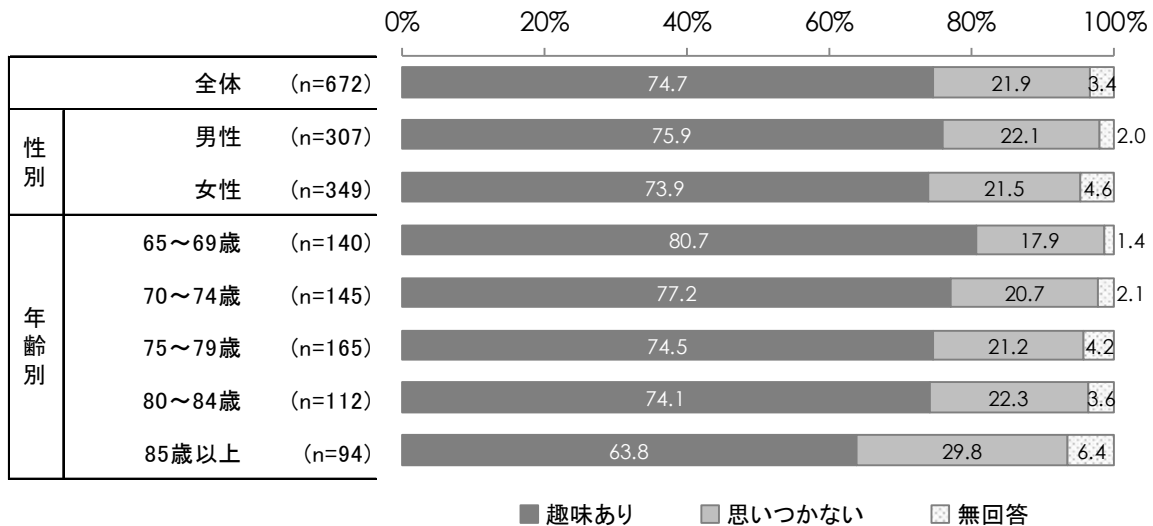
【参考資料】

<介護予防・日常生活圏域ニーズ調査>

(17) 趣味

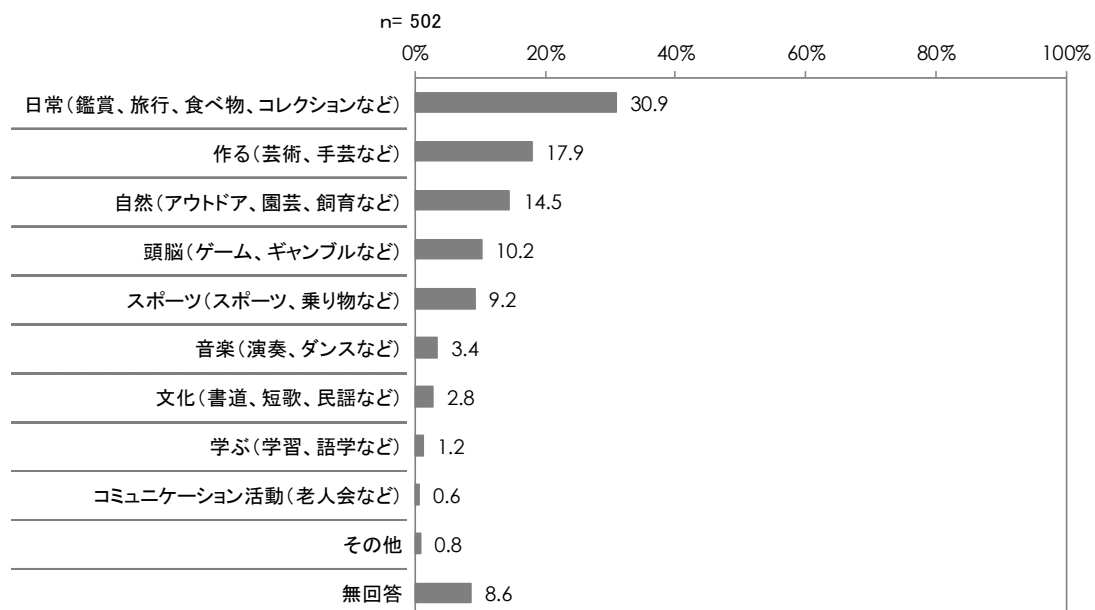
問4 (17) 趣味はありますか

○趣味（性別・年齢別）



- ・趣味については、「趣味あり」が74.7%となっている。
- ・年齢別にみると、85歳以上では「趣味あり」が63.8%となっており、84歳以下に比べ低くなっている。

○具体的な趣味（自由回答⇒複数回答）



具体的な趣味については、「日常（鑑賞、旅行、食べ物、コレクションなど）」が30.9%で最も高く、次いで「作る（芸術、手芸など）」が17.9%となっている。

【参考資料】

○具体的な趣味（性別・年齢別・圏域別）

(%)

		調査数	物、日常（鑑賞、旅行、食べ物、コレクションなど）	作る（芸術、手芸など）	飼育（自然（アウトドア、園芸、飼育など）	頭脳（ゲーム、ギャンブルなど）	スポーツ（スポーツ、乗り物など）	音楽（演奏、ダンスなど）	文化（書道、短歌、民謡など）	学ぶ（学習、語学など）	コミュニケーション活動（老人会など）	その他	無回答
	全 体	502	30.9	17.9	14.5	10.2	9.2	3.4	2.8	1.2	0.6	0.8	8.6
性別	男性	233	37.8	7.7	18.0	9.9	14.6	3.4	1.3	0.4	0.0	0.4	6.4
	女性	258	25.2	27.5	11.2	10.9	3.9	3.5	3.9	1.9	0.4	1.2	10.5
年齢別	65～69歳	113	40.7	13.3	10.6	8.8	9.7	2.7	0.9	0.9	0.9	1.8	9.7
	70～74歳	112	29.5	22.3	11.6	8.9	8.9	5.4	0.9	1.8	0.0	0.0	10.7
	75～79歳	123	30.9	16.3	21.1	8.9	9.8	4.1	0.0	1.6	0.0	0.0	7.3
	80～84歳	83	27.7	20.5	14.5	8.4	6.0	2.4	8.4	1.2	0.0	1.2	9.6
	85歳以上	60	21.7	20.0	13.3	21.7	10.0	1.7	6.7	0.0	0.0	1.7	3.3
圏域別	ひがし圏域	119	28.6	20.2	14.3	7.6	7.6	2.5	2.5	1.7	0.0	0.8	14.3
	みなみ圏域	111	29.7	16.2	16.2	10.8	9.0	3.6	4.5	0.0	0.0	1.8	8.1
	きた圏域	114	33.3	20.2	14.9	8.8	9.6	3.5	1.8	1.8	0.0	0.9	5.3
	中島・恵み野圏域	147	32.7	16.3	12.9	13.6	9.5	4.1	2.0	1.4	0.7	0.0	6.8

- ・性別にみると、男性では「日常（鑑賞、旅行、食べ物、コレクションなど）」が37.8%、女性では「作る（芸術、手芸など）」が27.5%と各々特徴的に高くなっている。
- ・年齢別にみると、65～69歳では「日常（鑑賞、旅行、食べ物、コレクションなど）」が40.7%と他の年齢に比べ高くなっている。